

令和3年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県央会場

科目 ③放課後児童クラブにおける食支援

- ◆ 食べることの大切さを学ぶことができた。食事環境の変化によって家族以外の誰かと食べる機会が減っているようで、食事を通してのコミュニケーションなどが少なくなりつつある。そんな中、学童は一つの間となってくるので、工夫しながらおやつや食事をとれるようにしたい。幸い夏休みが近く、おやつだけでなく昼食の機会もあるので、コロナの対策を取りながら、ただ食べるだけの環境にせず、何かを得ることができる場として工夫したい。
- ◆ 本科目では食事の大切さやアレルギーについて詳しく学ぶことができました。特にアレルギーに関する内容は、子どもたちの命に関わることであり、提供時だけではなく食後の様子にも注意する必要があると学びました。また、万が一の際の対応についてもマニュアル化が大切だと知り、現在あるものの確認と修正等の見直しを検討するきっかけにもなりました。学んだ知識をぜひ活かしていきたいと感じました。
- ◆ 講義を受けた後、たまたま県内の子ども食堂に関するニュースを見た。貧困により満足に食事をとれない子どもがいる現実を改めて認識すると同時に、自分を含め、クラブに通う子どもたちは食に恵まれていると感じた。今回の講義で食べることの意味を伝えていくという話があったが、その他にも、食べられることの幸せについて伝えていくことも子どもたちへの食育につながると思う。自分なりに考えたことを伝えていけたらと思う。
- ◆ 今回の研修で食物アレルギーは命にかかわる可能性があるので、ヒアリングの徹底とそれを支援員同士で情報を共有し、どんな状況になっても対応できるよう準備をしておく必要があると思いました。おやつの提供は衛生管理を高めることと、免疫力を高めるバランスの良い食材を食べていくことがとても大切であることを学びました。子どもたちがアレルギーにならないように守りながら、おやつを提供していきたいと思います。
- ◆ 子どもたちの好き嫌い、食わず嫌いが気になっていたが、なぜ嫌いか、食べないのか理由を聞いたことがなかった。心身の発達が著しいこの時期に栄養をしっかり摂り、生命と健康を維持するためにも食べることの大切さを伝える必要性を感じた。例年畑で作っているトマト、キュウリ、トウモロコシ等の苗植えから水やり、収穫体験をして、旬のものを食しているが、この夏休み期間に子どもたちと共に食について話をしてみたいと思う。